

2026年調布市長選挙 立候補予定者「外環道路」緊急アンケート集計結果

- 質問文 Q1. 外環事業計画内容と1966年都市計画決定以降今日までの経緯を、どの程度ご存知ですか？
- a. 詳しく知っている b. 大まかに知っている c. よくは知らない
- Q2. 2020年の外環陥没事故は、約千戸の地域で地盤沈下、家屋損傷、振動・低周波音健康被害多数発生。調布市道や下水管も損傷。地域コミュニティを壊す、約50戸の住宅を解体する地盤補修工事が5年半後の現在も継続中だが、住民被害の全体像の詳細が明かにされていません。事業者は、安全安心を求める被害住民の要求(説明責任、被害補償、事故再発防止、地域の再生、事故の記憶・記録の継承など)に十分応えていません。また、掘進中の中央JCT南側のランプトンネル工事でも低周波音被害、ホテル避難も報告されています。調布市は事業者には責任があるとの立場だが、低周波音騒音計購入など努力されています。地域住民の救済や安全安心のために、地元自治体として調布市は、
- a. 独自にできることにも取り組む b. 事業者に働きかけることで十分 c. その他(15字以内)
- Q3. 2021年発覚の外環事業に関する個人情報漏えい問題(情報公開請求書や被害住民・団体との面談記録等が調布市から事業者へ違法に提供)は、個人情報保護審査会等の調査結果をもとに幕引きされました。
- しかし、市の信用は失墜し、市民の疑問・不安は解消されず、被害者の調布市長に対する国賠訴訟が係争中で、上司に無断で送信したメールの削除など、情報公開、個人情報保護、文書管理、事業者との関係など組織運営のずさんさが明らかになりつつあります。このことについて、
- a.組織の管理運営を見直す b.現状で改善されていて見直し不要 c.その他(15字以内)
- Q4. 調布市域の現状と今後10年以上は課題山積です。陥没地域で停止中の2本の本線トンネル工事再開、中央JCT南の仙川周辺の軟弱地盤の浅深度地下掘進中の2本のランプトンネル工事、両者の接続部で世界最大級の難工事と言われる地中拡幅部工事が京王線・甲州街道付近で予定。このことについて、
- a.事業者の対応(原因調査・対策・住民説明)は十分で、今後も信頼できる b.徹底的な安全確認ができるまで工事中止すべき c.その他(15字以内)
- Q5. 2025年外環事業再評価は、事業費は当初の2倍超の2兆7千億円に増加、陥没事故で工事が止まっているのに2030年度末の完成時期の据置、費用便益比(B/C)は1.2、住民の人権侵害を考慮せず、事業継続となりました。あなたは事業の評価指標として何を重視しますか？(25文字以内)
- Q6. 外環道路事業や大深度地下法に関して、有権者に伝えたいことがあれば記してください(25文字以内)

立候補者名	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6
いそべ 隆	a	a 独自にできることにも取り組む	a 組織の管理運営を見直す	c 反対はしないが注視をする	日本の安全神話がゆらいでしまった事	当事者の方の悲痛な声を受け止めたいと思います
木下 やすこ	a	a 独自にできることにも取り組む	c 組織運営見直しと職員の意識改革	b 徹底的な安全確認ができるまで工事中止すべき	住民の生活・健康・環境への中長期的な影響と被害	工事再開より住民の暮らしと大深度法見直しを優先
林 あきひろ	a	c より一層働きかけていく	c 現状を確認し必要に応じ改善図る	c 安全性の科学的な担保を求めたい	被害住民への補償や地盤改良の進捗	安全安心が最優先される施工体制が示される事が重要
井上 こうし	無回答					

* 集約日 2026年6月25日 * 立候補者予定者名は2026年6月18日現在報道されている情報を元に、連絡可能な方々に限っています。